

友達と協働し、ボール運動におけるチームや個の課題を解決できる児童の育成

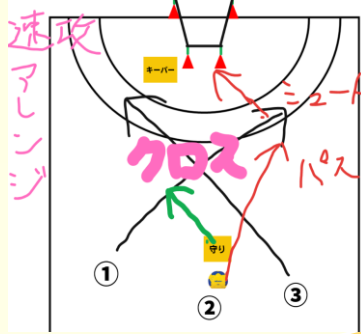
—「デジタル作戦ボードを活用した動きの可視化」と

「見る視点を関連付けた思考ツールによる自他の考えの言語化」を通して—

特別研修員 保健体育 石田 真規 (小学校教諭)

実践例：ゴール型(ハンドボール)

③ デジタル作戦ボードと動画で作戦の修正



動画で見ると、相手に作戦を読まれてうまくいかないこともあったね。作戦ボードにクロスを入れた動きも加えたり、今までの作戦も作戦ボードで確認して練習しよう！

② 動きや作戦を評価し、まとめる



うまくいった	うまくいかない	改善策
ボールを持っていない人にパスしたのがシュートにつながった	周りを見ていなかったからパスじゃなくシュートをしてしまった	周りを見ながらパスをする

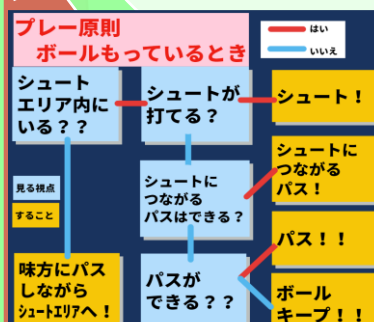
うまくいったことやうまくいかなかったことを整理しておこう。友達の思考ツールにまとめてあることも参考になるな。次は周りを見てプレーしよう。

② デジタル作戦ボードで作戦を共有し練習



作戦ボードで確認したように、守りがいない方にパスができたぞ！

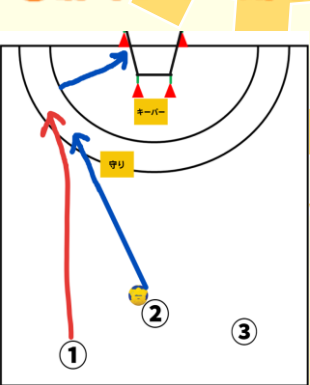
① 動きや作戦を評価するポイントの整理



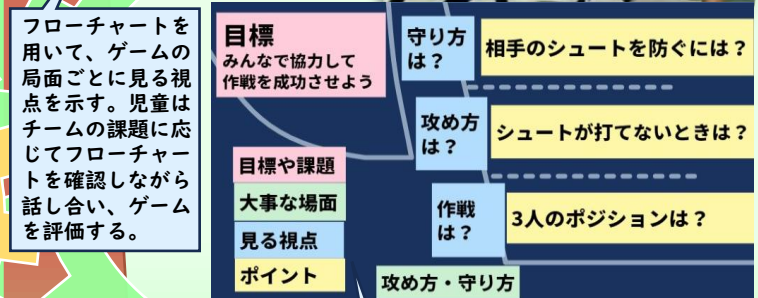
シュートが打てないのに打ってしまった。シュートが打てないときはパスだ。



① 前時までの動きを確認



前は守りがいるのにパスしてしまった。作戦ボードを使ってどんな動きがよいか、みんなで考えていきたいな。



教師が技能や作戦に関する大切な場面をフィッシュボーンを用いて整理し、見る視点を示す。児童は、見る視点に対して練習やゲームの中で見つけたポイントを記入していく。



手立て1 デジタル作戦ボードの活用

手立て2 見る視点を関連付けた思考ツール

児童の実態

- ・友達にアドバイスをしたいけど難しいな。
- ・実際に動いてみると上手にできないな。

教師の願い

- ・ポイントを意識したアドバイスができてほしい。
- ・考えたことをよりよい動きにつなげてほしい。

成果

- ・デジタル作戦ボードを活用し、チームのメンバーが同時に、何度も繰り返し操作できるため、作戦や動きが理解しやすく、ゲーム内での動きもよりよくなった。
- ・思考ツールにポイントをまとめ、意識して取り組むことで、児童の思考の広がりや深まりが見られ、話し合いが活発になった。

課題

- ・ICTを多用し過ぎたため、何をすればよいか困惑してしまった児童もいた。資料を精選することで、より多くの児童が話し合いで発言できると考えられる。
- ・種目の特性や児童の実態に応じて、思考ツールの種類を工夫することで、分かりやすい授業づくりにつながると考えられる。今後、他の種目の授業でも実践をしていきたい。